

保育所ニュース



保育所会議開催
第40回

親である看護師も保育所職員も 同じ病院ではたらく女性労働者。 ともに前進しよう！

「働きながら子育てを考える会」を提案



岸田委員長あいさつ

全医労は6月6～7日に東京・浅草セントラルホテルで第40回保育所を開催しました。地区・地方協代表・傍聴含め63人の参加で、日頃の活動の交流と今後の運動の意思統一を行いました。

1日目は、東日本大震災で亡くなられた方への黙祷を行った後、岸田委員長が「保育所の社会的位置付けが高まっている。子育て新システムの導入をやめさせ、保育所を守ろう。賃上げをかちとるには、職員

の全医労の加入が大きな力になる。会議で、各園との交流を深めてほしい」とあいさつしました。

続いて、重田博正先生（大阪社会医学研究所主任研究員）の講演「保育職場のストレスと職場作り」を受けた後、基調報告、全体討論を行いました。全体討論の中では、被災地から参加者の報告があり「働きながらの子育てを考える会」の提起や院内保育所で

2日目は3つの分散会にわかれて討論後、全体会を行いました。

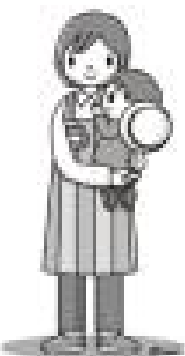
会議終了後、国立病院機構本部要請行動に代表が参加しました。

被災地の保育所から

被災地の保育所から「当日は、情報もないまま過ごした。食事が出せないなどの問題もあったが、支え合って保育を行った」「余震で、保育所の部屋の屋根が崩れ、使えなくなったライフラインが途絶えたが、みんなの協力で乗り切った」と報告がありました。

語り合おう 今こそ組合の出番

「働きながら子育てを考える会」の提案では、「親も保育士も子どもを中心において」「安心して、働けるような『考える会』」今こそ組合の出番。話し合いに参加できる場を作りたい」と意欲あふれる報告がありました。



「ストレスは人生のスパイス」

重田先生の講演は、「ストレスは人生のスパイス」ストレスがあることで、毎日張り合いがある。原因を考えず、結果を重視している。頑張りすぎない事が大切。「今の保育所問題は、『川の上流で害悪を垂れ流し下流で問題が噴出する』（渡辺治氏）保育の基本問題を語らずに今の現状だけが前面に押し出されている。目の前の保育要求に無条件に答えてはいけない。限界を認識するべき。職員同士が認め合い、支え合おう」と、保育の現場をとらえた、講演でした。

参加者からは「私たちのストレスが子どもに伝わっている。よりよい職場にしたい」「ストレスを生かして保育に役立てたい」など感想が寄せられました。

国立病院機構として 院内保育所を考える部署をつくれ

会議終了後、日本医労連・山田中央副執行委員長、原書記次長と全医労・美馬副委員長、同・森田中執を先頭に、地方協代表含む13人が参加し、国立病院機構本部への要請を行いました。

機構側は、職員厚生部職員課久保田労務専門職以下7人が対応。一括回答を受けた後、出席者から看護師等の確保対策と院内保育所の充実、処遇の改善を訴えました。

機構は「看護師の確保対策として、独自確保対策として様々なものに取り組み、環境面の整備として、院内保育所もその取り組みの一つである」としながら、機構における担当部署について「保育所は、第二共済事業の福利厚生事業の一環として、設置・運営している。機構には、決定権限はなく、直営は考えていない」また、運営について「現場においても、各施設の保育委員会で、保育体制・内容の把握をし、民主的協議を

している」「保育所園舎の建て替えについて、各病院は本部の承認を得て行っている。保育所整備費については各病院の判断において行われている」と回答しました。

災害マニュアルの中に 保育所もきちんと位置付けよ

全医労は、「病院職員の子どもの命を預かっている。今後の災害における対応が必要である」また、「震災時、頼りは病院だった。災害以外にも、院内保育所は、病院内にあるので、保育園の問題も気にかけて欲しい」「老朽化した園舎の対応を」と訴えました。

機構は「避難訓練など保育所は病院敷地内にあるので、災害対応は一緒にすることが望ましい」「震災後、マニュアルの見直しをすることになっている。経費の中で、最低必要な



分散会で出された意見も反映して

ものの整備を行い、保育所の整備として、位置付けたい」園舎の危険な箇所については、保育委員会を通して、緊急性を訴えたうえで、「動かなければ、安全性をおろそかにしている点で指導する」と回答しました。

また、「機構として保育所を考える部署が必要。看護師確保対策の一つではないか」との訴えに、「院内保育所は病院の重要な部署との認識はあるが、組織の一部署としては考えていない」と回答しました。

職員の賃金・労働条件について、

「賃金が安く、1人で暮らせない。生活保護レベルの賃金である」「『よい保育がしたい』と情熱をもって、仕事をしている。その裏付けとなるのは、賃金だ。賃金がきちんと出る委託料とせよ」と訴えました。

最後に「院内保育所を病院の重要な部署として認め、職員の声を聞いて受け止め対応すること。災害対策では、病院としての院内保育所対策を組み込み、安全性を考えること。必要な物品は安全対策を含めて、考えていくことが望ましいこと」を確認し要請を終了しました。

短時間での要請となりましたが、参加者から「以前より対応者も増え、話を聞いてくれるようになった」「移行時にくらべ、向こう側の態度が柔くなった」「機構はいまは聞く事を道理ととらえているが締めるところは締めてくる」「基本は国直営。いまの現場では1年雇用となっているが、声をかけあっていこう」と意思統一しました。

